



奴隸エルフ少女は
魔界王子の産卵苗床



魔界王子の産卵苗床
奴隸エルフ少女は

エルフの村は魔物たちの戦火に蹂躪され男達は戦死し女たちは目の前でオークにレイプされた。
オークは私は犯さずに商品として馬車に詰め込んで拉致した。

賞品ナンバー54！ご覧下さい！

エルフ少女！大人しく従順でそして処女！

魔力値も高く生贄としても性奴隷としても適性が高い！

20ジユエルから落札スタート！

辿り着いたのは魔界の奥地

千はいるかという魔物たちが集まる競り市。

略奪されてきた魔法アイテムや宝石類や美術品が競売にかけられて
魔物たちの欲望の中に飲まれるように消えていく…。

そのステージの中央、私も鎖で引かれて値段をつけられていく。



怖くないと言えばウソになるけど、怖さを感じないくらいにもうこの世に絶望していた。

私に付く値段がどんどん上がっていく...それがどうかもわからない...

高い方が大切に扱われるのか...それとも過酷なのか...

豪商ゲノイクス50000ジユエル！
かなり上げてくるな
あいつはエルフに目がないから...

魔界貴族ワルドも食い下がるな
ワルドに買われるのが
あのエルフには幸せだろうが...

アレは上玉だぜ
磨けばいくらでも光る

フアッ

ウオオ

30000ジユエル！
魔王城の連中
じゃないか！

オオ

キキキ

ストエ

30000ジユエルで
確定です！

色んな声が聞こえてくる中で
私が売られていく先が決まった...。
どう見ても女性には興味すらなさそうな
鎧の魔物たちが私を買い
私は彼らの城である魔王城に運ばれていった。

魔界の最奥地に、そびえ立つ魔王城…。

魔王を頂点として60名の王子、そして千を越える魔界貴族たちが君臨する魔界の中枢。

中は暗かったがキャンドルが並ぶ荘厳とした落ち着いた美しい城だった。

そこには同じく連れてこられたであろう娘たちが、メイドとして勤めており、

彼女たちに説明もないままに私は浴室で体を洗うように指示される。

私は逆らう事もなく、旅や戦火で汚れた体をお湯で流していく。

その間、ずっと外で私を見張っているメイド達の声が聞こえていた…。

またなの？

あの王子の生贄…

でもあの王子に仕えたメイドは

みんな行方不明じゃないですか？

産卵もまともにした形跡もないし

あの小太り王子が女の子を

食べたんじゃないかって

みんな噂してる…

私あいつ無理…

見た目も中身も

受け付けないし

生贄なんて言うんじゃないですか

誰かに聞かれたらどうするの？

私はその声を聴かないように熱いお湯の中に、頭をつけて沈み込んで息を我慢できるだけじっとして、それから顔をあげると外の声は静まっていた。私を迎えに魔物の兵隊がやってきたようだった。

外に出ると、ボロボロだった服は処分されるので下着のような露出の多いメイド服が用意されていて、私はそれを着用し兵隊に案内されるままに迷路のような城を歩いて上部に進んでいく。

そして廊下に並ぶ部屋の中でもひととき大きな扉の前で1人であるようにジェスチャーで指示される。

私はここに来て誰から教育も説明も受ける事もなく、

主としてお仕えするお方がいる部屋へ、単身で入っていった。



主様は時々、私を抱きしめたり耳をなめたりおっぱいを触ったり
少しエッチな事をしていた気がするけど、私は初めて見るような食事に浮かれていて
その時は、あまり気にしていなかった。

にゅんは

まぬまき
だね

にゅん

にゅん

にゅん

村だこ

あま

お肉なあたの

女のマル

食べたいてす

ノルちゃん
お腹いっぱい食べたなら
ちよっとお仕事があるからわ?

にゅん





主様？
「これは…あの…
私…困ります…」

主様はいきなり立ち上がって、ズボンから天井に向けてそそり立つ性器を露出させ
焦点がぼやけてしまう程の私の目の前に突き付けた…。

はあああ…ノルちゅあん♡

ポクテンもう我慢できない！

ポクテンのワインナーを可愛いその口に挿れたい！

主様の性器からは顔を背けたるような異臭がして、
でも私は今置かれてる立場を理解し
そのまま笑顔を保とうとした。



嫌なら、泣きわめいて
「帰りたい」と懇願してね
ボクチンほねーそういう
女の子の姿が大好き♡

主様の性器は、私の口に突き付けられて、開いていた口の中に先が入り込み、私の舌に先端の割れ目が触れる。

でもこれは全てわかっていた事だった…。

だって目の前で村のみんながレイプされて、性器を舐めさせられる姿を見てきたんだから…。

生きるために性を搾取されることを受け入れるしかないのだ…。



あほ♡
あほ♡
あほ♡
あほ♡
あほ♡

いい子だよノルちゃん
ちっちゃいお口で頬張って
可愛いねえ
やっぱりお肉好きなんだね
ポクテン嬉しいなあ！

私は口を大きく開けて、主様の性器を受け入れた。
太い主様の性器が口をふさいで息が出来なくなって
鼻で息を吸い込むと主様の刺激臭が鼻を痛いほど刺激して、
私は目を閉じてじっと我慢して耐え続ける。
主様はその私の頭を両手で抑えて口の中の性器を前後に動かし続けた。





あや♡
あや♡

あや♡

主様は、
私をベッドに運んで、
私の身体を手で
弄びながら、
時間をかけてゆっくりと
キスをした。
私はその行為を
無言で受け入れていく。
主様は紳士的で、
キスも触り方も優しく
拒否感はあったけど、
反射的に拒絶してしまいうほど
強いものではなかった。

おやおお

くっくっ



さっき舐めていた硬く勃起した性器が私の膣の入り口に当てられた。

ノルちゅあん♡
今からボクチンが太いウインナーを下のきつきつのお口に入れてたっぷりとセツクスしてあげるからね嫌なら泣いて嫌がるんだよ？

いいえ。。。主様。。。
覚悟はできています。。。

私には選択肢なんてないんだ。。。

むふう♡こんな従順な子初めてだなあ
泣き喚いて帰りたいって言えばちよっぴりだけ考えてあげたのになあ



主様は私に性器を押し当てたまま体重をかける。
強い圧迫感を感じると同時に
頭の中で何かが開いていくような感覚がする。
主様は私の狭い膣を入るところまで進むとそこで動きを止めた。
その時やっと私の頭にじんわりと処女を失った鈍い痛みが上ってきた。

フワッ...

んんん

カッツイ

フワッ

あ♥ん♥

た〜ん♥

キヤン♥

ズブズブ

アッ

私は生まれてから
誰にも愛されずに生きてきた...
そして誰にも愛されないうまま
セックスをするんだ...





主様の大きな体が私の身体にのしかかり圧迫されると、
重みで身体から空気が押し出されるように私は息を漏らした。！
主様は大きな体をベッドで弾ませて、
挿入している性器を、
ピストンさせて

深く奥へと打ち付ける。

主様の舌は、
下半身の動きとは
別に私の顔や体を

這いまわり
臭い立つ唾液を
私に
塗りつけていく。

べろべろ

ギンギン

んんん
んんん

強い嫌悪感で

逃げたいとらう

気持ち

声になりそうなほど

溢れてくる。



フワフワ〜ルちゃん嫌なの？
嫌ならやめて下さるん？
泣きながらお願いしてね？
女の子の泣き顔
ポクテン好きだなあ

あ…はあはあ…
主様少し
苦しいだけです…
大丈夫です…

拒まない…
受け入れる…
それしか
ないんだ…

いい子だねえ
可愛いねえ
じゃあキョんキョん
締め付けてくる膣に
たっぷりと射精して
あげるからね



主様の性器が私の膣で擦れて
どんだん熱を帯びると
その熱が私の膣奥で
放出されるのを感じた…。
主様は体重をかけて
より深く膣の奥へと
性器を差し入れて
何度も体を震わせて
射精を続けた…。

あ♡ん♡ん♡
奥が♡ぬ♡い♡♡

ぐん♡

ぐん♡♡♡

射精が終わると

主様の熱で

私の膣も熱くなって

鼓動が高鳴るのを感じた…。



性行為が終わると、
主様は口からお腹へ
二つに裂けるようにして
魔物へと変身し始めた……。

さあ……ノルちゃん……
「こ」からが本番だよ……
泣いて喚いて叫んで
力の限り拒絶して暴れて「ん」……。



主様の割れ目から
無数に飛び出し出てくる触手が、
私の身体を捉えていく……。

あの……
主様……聞いてください……

私は赤ちゃんの頃に
戦災で両親を亡くし
孤児院に引き取られて、
物心ついた頃には
手伝いに農作業に
働いていました。

食べる「飯は、
手伝ってもらってくるモノで
捨てられる前の残飯……。
そんな日もありません……。
誰からも愛されず
誰からも撫でられた「ともない
そんな風に生きてきました……。



じゅる……

じゅる……

「ご飯美味しかったです♡
あんな美味しいご飯
貧乏な村で
どんなに手伝わっても
食べれなかったと
思います。
しかも主様は優しく
いっぱい撫でてくれた...。
幸せだったんです。
こうなるって
わかってたんですよ...
なのに
幸せでした...だから...」

「もういいかなって...
私生きてきてよかったですって
思っちゃったんです♡
だから主様の
お気に召すままに
私を好きにしてくださる...」





키득! 키득!

.. 키득! 키득!

触手は膣の奥で子宮に向けて大量に射精する…。
私の身体は主様に奥に出された事を
快感として覚えておいて、触手にされた射精も
まるで同じことのように痙攣して反応する。



じゅわん

じゅわん

じゅわん

じゅわん

じゅわん

じゅわん

触手は入れ替わりながら私を深く犯し、
子宮に向けて何度も射精していった。
私の身体は何度も痙攣しイクという感覚を
覚えさせられた…。
そして子宮がどんどん熱くなってくる
でもそれは快感とは別のものだった…

ワタワタ

ワタワタ

子宮が熱い

あーっ♡おかわり♡



子宮から強制的に排卵させられた
卵子は触手の精子と受精し
瞬く間にお腹が大きく孕んでいった…。



魔界王子や魔界貴族といった高位の魔族は
女性に種付けを行い産卵させる。
それによって魔界の魔物たちは生まれるのだ。
魔王城に連れてこられた女の子たちは、
産卵するための苗床になることも、
大きな役割になっている。

急な体の変化にホルモンの分泌が崩れているのか母乳が溢れ出す。



受精した卵がお腹の中で無数に膨らんでいく。
それに伴って最初に受精した卵がひとつ
内臓を押し広げながら膣から落ちていく。
卵が動くことの圧迫と抜け落ちていくことの解放
それらは性行為と近くて異なる快感と苦痛を
私にもたらし続けていく...

ゴホッ♡♡
ゴホッ♡♡

産卵を終えると主様の中から私は解放されていた…。

主様…？
どうして…？
私を食べちゃうんじゃないんですか？



君はなんて子なんだ
わざわざ「帰りたいたい」って女の子に言わせるために
流したウツを信じていたのに「帰りたいたい」って言わないうんて…。

よかった…
ウツだったん
ですわね♡

ポクテンは
嫌がる
女の子を拉致して
産卵させるなんて
非道な事が嫌いでも
でも魔界王子だから
役職上産卵を
しないとイケないと
周りから言われて
女の子を
あてがわれる。

そこで周りと約束したんだ。
嫌がらない女の子となり
産卵するってね
そしてわざと嫌がられる「こ」をして
美味しいもの食べさせた後で
みんな故郷に帰してあげたのさ。



でもノルちゃんは規格外のいい子だったんだ。
今までボクちゃんに耳を舐められて帰らない子はいなかったのに
全然気にせずにお肉を食べ続けて最後までしちゃうなんてさ。

だってお肉
美味しかったんです
主様優しかったし
幸せだったんです♡

ほんとに生まれて初めてだよ
君みたいな子と会うのは…。
でもね今度は優しく言うよ
『帰りたい』って言いなさい
…ノル…いい子だから…



主様♡私帰ると「うるがないんです
だから帰りたくても帰れません…
それに主様を好きになっちゃってしまっ
たんです
だから御側に置いてください♡主様

ホントに君は…
嫌がってくれないと
帰らせれないじゃないか
ずっと側に
置いてしまっじゃないか…

はい♡主様♡
ずっとです♡



誰とも産卵しなかった主様が
私と産卵をして
専属メイドにした事は、
魔王城に驚きをもって
迎えられた。



アッ
アッ

アッ
アッ

ポクチン王子が産卵だと？
王子は産卵をしない事で
魔王後継者争いから
脱落していた方だ！。

王子の中で
最高の政治力と
実行力を持つ
ポクチン王子。

ギョギョ



こうなると武力しかないデクチン王子よりも、
周りを使いこなせるポクチン王子の方が、
魔王に相応しいと言えるな！。

ギャギャ

ギョギョ

魔王城の勢力図が
大きく変わるぞ。

私の主様は、愛に溢れて優しく、イケメンなだけじゃなくて、とても優秀な方だった。周りの方々も温厚で知性的な主様を盛り立てて魔王にしようとする方が多くいて、そのための必要項目が産卵をすることだったわけ、それを成し遂げた私も周りの方々から受け入れられた。

たれはだんし
思っつよ

キマは世界一の
イケメンだよ♡

それからの私は、専属メイドとして主様の公私を支えるという、愛するお方にお仕えする幸せすぎる日々が続きました。





王子には産卵のノルマがあり、
それに必要な回数を私から
おねだりすると主様は
性行為と
産卵をしてくれる。

あ♡

オママゾ♡

スゴイ♡

きもち♡

私の身体は、
産卵を繰り返すうちに
母乳が溢れるようになり
性行為の快感もしっかりと
感じ取れるほどに
開発されていた。

主様♡愛しております♡
すごく幸せです♡
主様…主様…



じゅわん

じゅわん

ノルちゃん
キーンキーン締め付けて
かわらさず
すいすいすいすい♡

主様♡
主様からも
「愛してる」が
聞きたいです…

ダメだよノルちゃん
それを言ってしまうと
君をボクシングで束縛してしまっちゃうから？



キーン
キーン
ドン
ドン
ドン

主様は優しい…
でも一番欲しい言葉をくれない。
私は主様を愛してるのに
連れてこられた奴隷という
私への見方を変えてくれない。

主様♡
イン♡
イキます♡
あ♡
ぬ♡
ぬ♡

私は主様を愛して
御側にお仕えしてる。
自分の意志でここに居るから
ここに居ていいって縛ってくれる
愛の言葉が私は欲しかった…



とは言え、主様にお仕えすることは、幸せに違いはなく、私はメイド業務も懸命に励んでいたわけで、でもメイド業務は常に主様の側ではなく、魔王城を1人で洗濯や雑用に走り回る時間は少なくない。

今日も1人で、
お仕事を
している時だった…。

普段私とは
関わらないような
魔物に囲まれて、
人気のない所に連れていかれてしまった…。

主様の周りにいる魔物は、悪魔神官やアークデーモンといった知性的な存在なら、私を拉致した魔物は、ゴブリンやオークといった武闘派…。

主様に敵対する派閥が何らかの目的をもって、私を利用するために拉致したことが目に見えて理解できた。魔物たちが戯れに私の衣服を破り拘束し弄んでいる間に、その派閥のリーダーが目の前に現れた…。



主様のライバルの最強魔力を持つ武闘派…
デクチン王子…

その人が私を拉致したのだった…。

ごめんね
ノルちゃん
部下がちょつと
乱暴でさ★



私は無視するように顔を背ける…

可愛いね
こんなおっぱい
柔らかいエルフ
初めて見たよ？
兄貴みたいなの
ブサメンには
ちよつと
もつたいない☆
ノルちゃんも
イケメンが
好きっしょ？
俺みたいなの？

返事しろよ？
優しいっつちやないか



主様は世界一のイケメンです…
貴方みたいな人と比べる必要もありません…

へえ…
一途なんだ？
可愛いね…
でもバカだね。
それで生意気…
でも
おかげでさ
遠慮なくさ…

強姦できるわ
クソエルフ…



木ノ! 木ノ! 木ノ!
ジーン? 木ノ! 木ノ!



木ノ!

ア...

木ノ! 木ノ!

ギヤハハ！
ポクチンの野郎
童貞だったくせに
一人前にちゃんと
開発してやがるじゃねえか！
ぐちゃぐちゃに濡らして
俺のちんぽスッポシと
飲み込みやがった！

デクチンは私を組み強いて
性器を無理やり
ねじ込んだよ……。
例え身体の反射としても
そんなものに反応して
愛液が出る身体が
恨めしい……。

俺魔王になりてえんだよ
困るんだよなあ
ポクチンに産卵されたら！
どうせお前は
セックスしてくれたら
誰でもいいんだろ？
あんなキモメン普通は
愛さねえもんな？
イケメンの俺の方が
いいって言えよ！オラ！



分かった！
お前Mだろ？
だからあんなキモメンと
セツクスできるんだろ？
ギャハハハ！

デクチンは
嘲笑いながら
私のお尻を何度も
平手で打ち付ける…。

オラ！オラ！
ケツ叩いたら
膣をキュンキュン
締め付けて
喘ぎだしやがったぞ！
ギャハハ！

オラ！オラ！
オラのちが
いキモメン？
オラ！
オラ！



パン

パン
パン
パン

パン

痛…

いぬや…



ゴッ!
ゴッ!
ゴッ!

ゴッ!
ゴッ!

ビュッ

ビュッ

ゴッ
ゴッ

ビュッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ
ゴッ
ゴッ

触手は私の口に
糸を巻き付けて
拒絶の言葉すら
出せないようにして
私への種付けを
続けた…。

否応なく襲ってくる
身体感覚を
拒絶ことすら許されず
受け入れるしかなく、
触手は私のお腹を
卵でいっぱいになると、
そこで私を解放して
繭の外に出す…。
繭の外にあったのは
私達にとって絶望の光景だった…。



目の前には、私を助けに来た主様が、
呆然と立ち尽くしていた。

イエーイ☆
兄貴見てよ
俺兄貴の彼女と
セックスしちゃった
ギャハハ☆

でもさ
パンパンしたら
マンマン
ムハハハハ
ムシエトも

ギョギョ



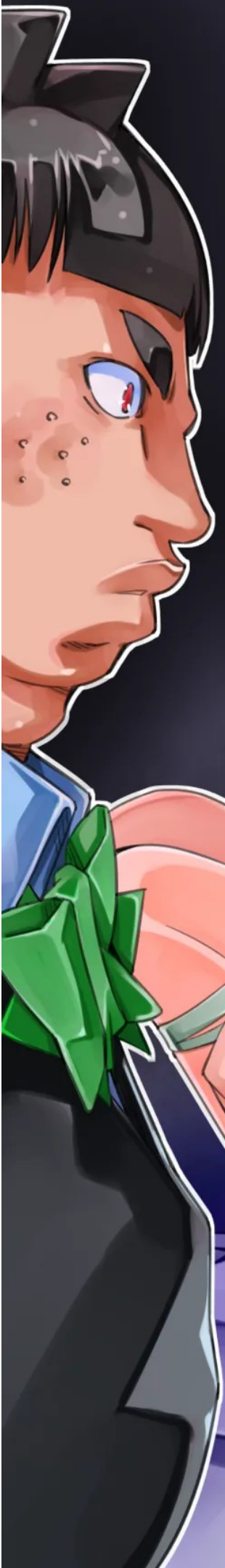
パンパンのお腹
全部俺の卵だ☆
ホラ！ホラ！
出てくる所
見てあげてよ！
ギャハハ☆
兄貴さ
産卵の才能ねえわ
やめた方がいいよ
この子にも
聞いてみよっか？

デクチンは
主様に、
産卵を
させないために、
私をレイプして
その姿を
見せ付けて
いるのだ…。

んっ！んっ！！

ゴホッ

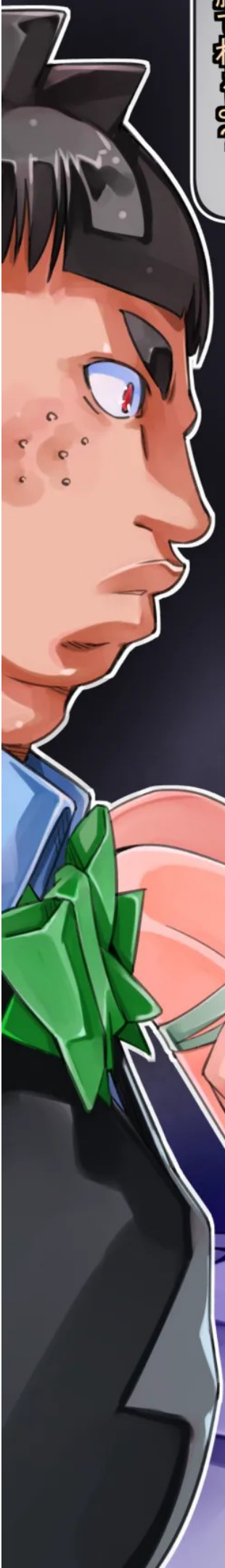
ゴホッ



主様…帰りたい…
私の家は
主様の胸の中です…
助けて下さい…
主様…

ねえ？聞いた？
超けなげじゃね？
でもダメ
俺のモノにして
死ぬまで
卵産ませて
やるよ★
ギャハハハハハ

それとも力で
取り返す？
無理っしょ？
雑魚じゃん？
兄貴俺に
勝てねえよ？



主様は重い口を、
怒りを抑えるように
ゆっくりと開いた…。

デクチンよ
お前はポクチンの事を
ふたつ誤解している…。
ひとつは
ポクチンはノルを
心の底から愛している。
お前が何をしようが
その愛は揺るがぬ…。

そしてもうひとつ
ポクチンは
争いを好まぬ…
だが
だからと言って
闘えぬわけでは
けしてない！
覚悟しろ！
デクチン！

主さま・主さま…



それは一方的な勝負だった…。
主様の圧倒的な力の前に、
デクチンはボロボロにされた。

さあ…ノル…
一緒に帰ろう…

はい…
主様♡



最強の王子と見られていたデクチンを
主様が倒したことで、
魔王城の武闘派達も
一斉に主様の下について、
デクチンもまるで子分のように
主様に従うようになった。
そしてこれからかなり先だけど
主様は魔王になり、
各界と和平協定を結び
歴代最高の名君と
言われている。

そして私の
大切な
旦那様に
なっていた。

